



乾杯

芙蓉会会長

守屋 敏道

皆さん、こんばんは。ただいまご紹介いただきました、芙蓉会の会長をしております、守屋でございます。毎年この特技懇の懇親会の乾杯のご挨拶の発声をさせていただきます、誠に光栄に思っております。

この特技懇でございますが、私どもは特技懇のOBでございますので、本日も多数のOBも参加させていただいております。毎年一度開かれる懇親会を楽しみにしているところでございます。

さて、新人の方が89名入られたということでご

ざいですが、89名の方にはぜひ「サラメシ」で自己研鑽しながら、グローバルな社会で通用する審査官、審判官になっていただけたらと、それを強くご期待申し上げます。頑張ってください。

それから、先ほどお話がございましたように、この知財システムはグローバル化をしています。出願の方も日本は横ばい状態でございますが、中国の方では6月末で既に特許と実用新案で132万件、意匠は27万件です。私の予測ではおそらく特許と実用新案は中国で300万件の出願、それから意匠も65万件になるだろうと思います。そのような情報がたくさんある中で、先ほどお話があったAI、通信技術がどんどん進めば、知財システムも、それから審査、審判もだんだんと国境がなくなってきます。先ほど新特許技監がおっしゃったように、審査、審判で世界に貢献できるように、ぜひ頑張ってください。ありがとうございましたと思っております。

私どもOBはほぼ全員が引き続き知財の業務をさせていただいております。特許行政、あるいは特技懇の皆様が頑張ってください特許の審査、審判、意匠の審査、審判に続いて精励していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは少し時間がかかりましたが、乾杯に移させていただきます。これから特許行政のますますのご発展と、特技懇の会員の皆様のますますのご活躍、それから本日ご参集されました皆様方のご健勝を祈念して乾杯をさせていただきますと思っております。

ご唱和ください。乾杯。

